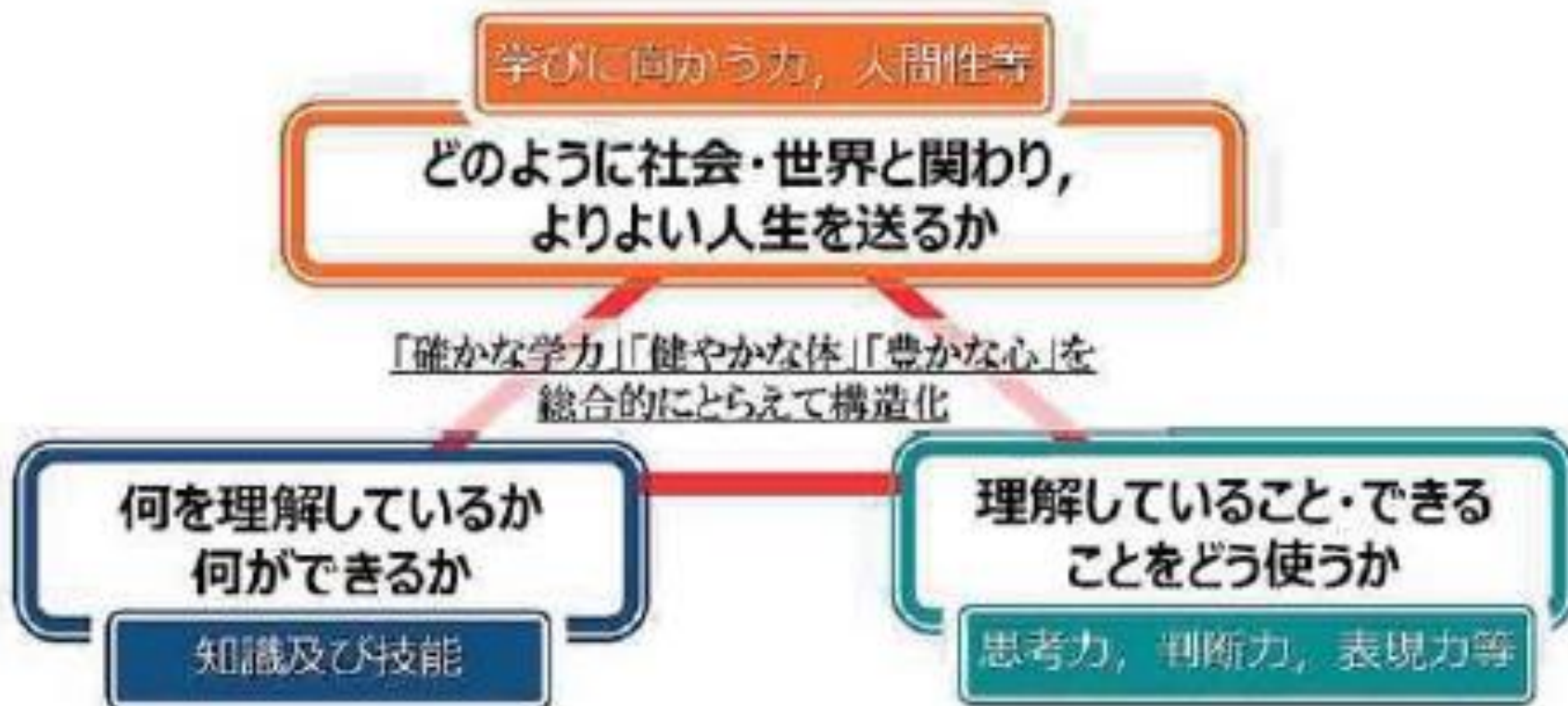


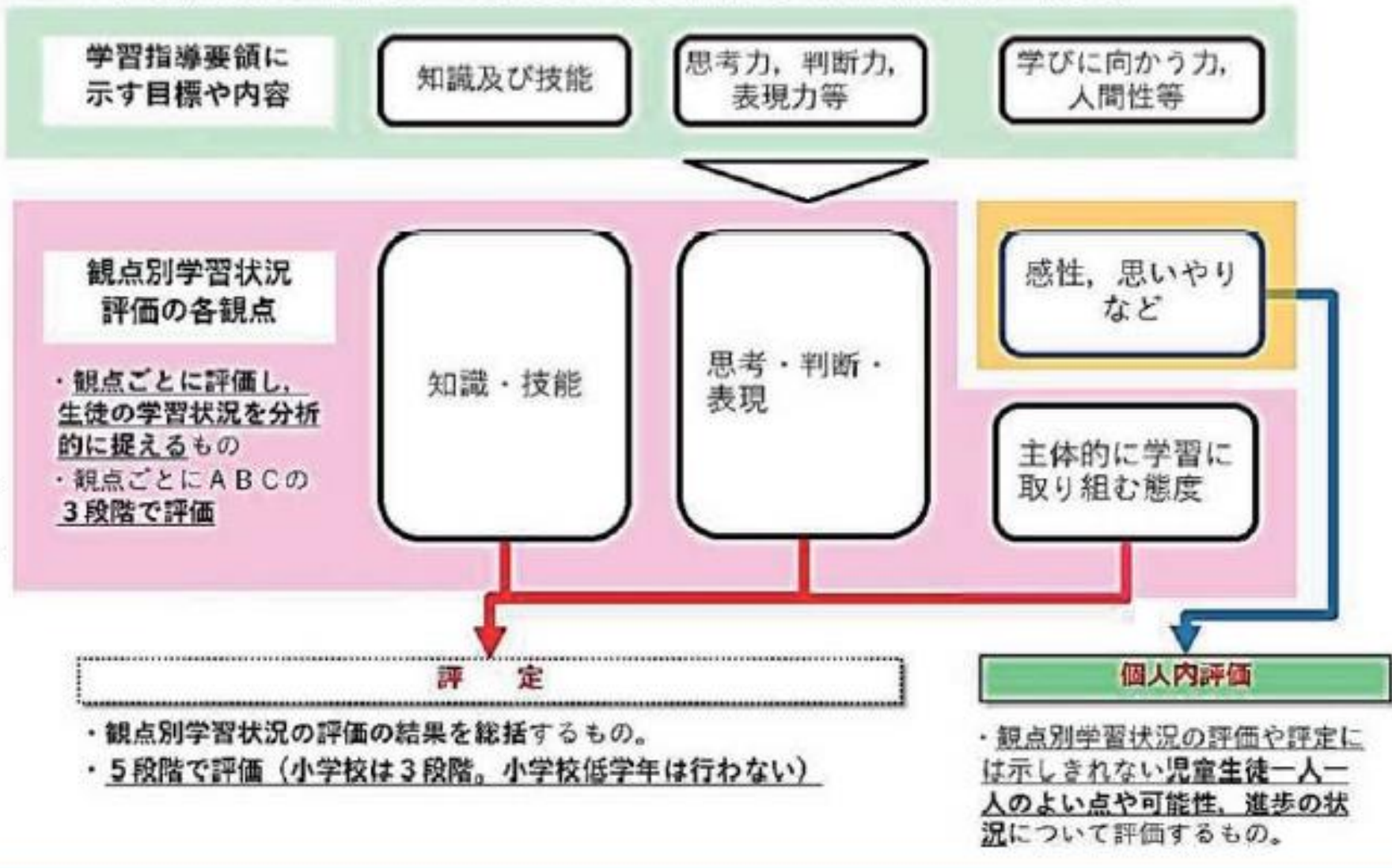
評価について

ペーパーテストだけでなく、
観点別に様々な場面で評価
します。

学力の3要素



- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



観点別学習状況の評価

A ^o	十分満足できるうち特に程度の高いもの
A	十分満足できる
B	おおむね満足できる
C ^o	努力を要する
C	一層努力を要する

A^o = 5点, A = 4点, B = 3点,
C^o = 2点, C = 1点として合計

A[○]=5点, A=4点, B=3点, C[○]=2点, C=1点とする。

組合せの代表例 (合計値)	評定と規準
A [○] A [○] A [○] (15) A [○] A [○] A (14)	5 十分満足できると判断されるもののうち、 特に程度の高いもの (15点~14点)
A [○] A A (13) A A A (12) A A B (11)	4 十分満足できると判断されるもの (13点~11点)
A B B (10) B B B (9) B B C [○] (8)	3 おおむね満足できると判断されるもの (10点~8点)
B C [○] C [○] (7) C [○] C [○] C [○] (6) C [○] C [○] C (5)	2 努力を要すると判断されるもの (7点~5点)
C [○] C C (4) C C C (3)	1 一層努力を要すると判断されるもの (4点~3点)

主体的に学習に取り組む態度について

学びに向かう力、人間性等

観点別学習状況の評価にはなじまない部分
(感性、思いやり等)

Ⓑ

「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分

Ⓐ

個人内評価（児童生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの）等を通じて見取る。

※ 特に「感性や思いやり」など児童生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などについては、積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要。

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価します。

<評価方法の工夫（例）>

- ノートやレポート等における記述
- 授業中の発言
- 教員による行動観察
- 児童・生徒による自己評価や相互評価等の状況を教員が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いること

観点別学習状況の評価の総括

【本事例における観点別学習状況の評価の結果例】

	知識・技能 の評価	思考・判断・表現 の評価	主体的に学習に取り 組む態度の評価
項目(1)の学習活動に即した評価規準	②: B ③: C ④: A	①: B	⑤: B
項目(2)の学習活動に即した評価規準	⑧: B ⑩: A	⑥: B ⑦: A ⑨: A ⑪: A	⑫: B ⑬: A
項目(3)の学習活動に即した評価規準	⑭: B	⑮: A	⑯: B
評価結果のA, B, Cの数	A: 2 B: 3 C: 1	A: 4 B: 2 C: 0	A: 1 B: 3 C: 0

※ ①～⑯は「3 指導と評価の計画」における「評価規準の例」を示す。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

観点別学習状況の評価の総括

- ◆ 評価結果のA、B、Cの数に基づいて総括する
(例) 3回の評価結果が「A B B」ならB
- ◆ 評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括する
(例) $A = 3$ 、 $B = 2$ 、 $C = 1$ として合計して平均する
Bの範囲が $2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5$ とすると
「A B B」の平均値が約2.3となりB

この例の方法以外についても様々な総括の方法が考えられる。

評価結果のA、B、Cの数に基づいて総括する場合には、評価結果のA、B、Cの数を目安として各観点の評価結果の数が多いものを総括した評価とする。

評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括する場合には、評価結果の数値によって表し、合計や平均することで総括する。